
MOTHER2 ~ 少女少女の思い ~

ユキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MOTHER2 ～少年少女の思い～

【Nコード】

N9675Y

【作者名】

ユキ

【あらすじ】

どこにでもいる12歳の少年。しかし、オネットに住む12歳の少年ネスは超能力（PSI）を持っていた。ネスは旅をして、少女と少年を仲間にする。ドアのノックをきっかけに始まった大冒険。

1：プロローグ（前書き）

こんにちわ、ユキです♪

初投稿なのでおかしいところがあると思いますが、宜しく願ひします！！

1: プログ

1999年・イーグルランドの小さな町、オネット

オネットの丘の上には2つの家がある。

そのうちの1つの家には、12歳の少年、ネスが住んでいます。

$$\left(\begin{array}{c} T_1 \\ \vdots \\ T_n \end{array} \right)$$

「い、今のは!？」

今の巨大な音でベッドに寝ていた少年、ネスは起きた。

「トレーシーは大丈夫かな？」

ネスは自分の部屋の隣にある妹、トレーシーの部屋に入る。

「お兄ちゃんも、今の音で目が覚めちゃったの？怖かったわ。」

「もう大丈夫だと思うよ。」

ネスはトレーシーを元気付けて、1階にある居間に降りた。

ネスはママのところに行った。

「何だったのかしら、今の音？」

「よくわからないけど・・・（見に行ったらダメかな？）」

「ネス、貴方は怖がってないみたいね。」

「ま、まあね。」

「まさか、外へ様子を見に行くなんて言うんじゃないでしょうね？」

ママはネスに言うと、ネスは苦笑いをする。

「（図星・・・）」

どうやら図星のようだ・・・。

「はあ、わかったわ。どうせママが止めても部屋を抜け出して見に行くんでしょうから、せめて着替えてから行きなさい。」

「（さすがママ。わかってるね・・・）」

ネスは着替えて外に出る。

「（外は警察ばかりだなあ。オネットの警察は何かあったらすぐに道をふさぐので有名なんだよね。ギネスにも挑戦しているらしいし・・。ギネスに載ったら道をふさぐのはやめて欲しいよ・・。）」

警察の動きに内心、苦笑いをするネス。

ネスは隕石が落ちた場所に来たが、警察でいっぱいだった。

「（これじゃあ、夜中も警察車のライトで眩しいよ・・。）」

そしてネスは一人の警察官に話しかける。

「ちょっと、ネス。あそこにいるポーキーを何とかしてくれよ。邪魔なんだ・・。友達だろう？」

「友達じゃなくて家が隣だけです・・。」

「それでも隣なんだろう？ポーキーを何とかしてくれよ。」

ネスは言っが警察官も粘る。

そしてネスは諦めたように言う。

「はあ。わかりました。」

そしてネスはポーキーに近寄る。

ポーキーはネスに気付く。

「よう、ネス何してるんだ？」

「それはこっちの台詞だよ。ポーキーも何をしてるの？」

ネスはポーキーに言っとポーキーは胸を張って言う。

「今は俺様がこの隕石のことについて調べているんだ。詳しいことは後日話すから、お子様はとっと帰って寝るんだな！」

ポーキーはそう言っと、また隕石のところに行く。

「（もう何があっても知らないよ。）」

ネスは家に帰って寝る。

(ドン！ドン！ドン！ドン！ドン！ドン！)

ネスはドアの音で目が覚める。

「(誰だよ、こんな夜中にドアをノックする人は・・・)」

内心そう思いながら部屋を出る。

廊下に出ると、トレーシーがいた。

「誰かノックしているみたい。下品な叩きかただなあ。」

「確かに・・・。」

ネスはトレーシーとの会話を終わらせて居間に降りる。

するとママがネスのところに来て言う。

「こんな時間に誰かがドアをノックしてるみたい。ネス、出てちょうだい！」

「(よっぽど怖いだね、このノック。)」

ネスはドアを開けると、ポーカーが入ってきた。

このノックをきっかけに、ネスの大冒険が始まる。

1：プロローグ（後書き）

更新速度は遅くなりますが、これからも宜しくお願いします

2：未来からやってきた者、ブンブーン（前書き）

本当は昨日には投稿しようと思ったんですが、データが消えてしまいました・・・orz

最初から書き直すのがとても大変でした・・・（汗

それでは2話、いきます！！

2：未来からやってきた者、ブンブーン

「た、た、たた、たいへんなんだよ!」

「何が?」

「何がって、何がじゃないよ。あの隕石の落ちたところにピツキーを連れてたらさあ、おばさん、こんばんは。いつも綺麗ですね、へへへ。えと、つまりピツキーを連れてたらさ、警察はシャーク団が暴れてるからってそっちへ行っちゃってて…だからピツキーがいなくなっちゃったんだ。警察が悪いんだよ。ぼくは悪くなくてさ。でも、父ちゃんが帰ってきたらおれが怒られるだろ。ケツたたき100回だ。一緒にピツキーを探しに行ってくれるだろ?親友だつてことであ。」

するとポーキーは涙目になる。

「(なんか複雑な気分だ。。。)」

そしてネスは溜息をつく。

「はあ……。わかったよ。」

「そうか、友よ!サンキュー!」

ネスはママに話しかける。

「話はわかったわ。頼りにならない犬だけど、チビを連れていきなさい。トレーシーの部屋にある、バットもこんな時にこそ役立つんじゃない?」

「ありがとう、ママ。」

ネスは着替えてバットを持ち、ポーキーとチビを連れて玄関へ行く。すると、

(プルルルルル)

「もしもし、パパだ。若いときの苦労は買ってもしろ!という言葉もあるじゃないか。パパはいつでもお前の味方だ。怖れずに勇気をもってやってみなさい。健闘を祈る。パパだってヒーロー!...の父親になれるなら悪い気はしないぞ。ワハハハ!」

(ガチャン、ツーツーツー)

ネスは外に出て隕石の落ちた場所まで行ってみることにした。

もちろん隕石のある場所に行く途中には敵が出てきた。

が、ネスは敵と戦いながら隕石のある場所まで行く。

隕石のあるところまでいくと、そこには、ポーキーの弟、ピッキーがいた。

しかし、その前にチビが止まる。

「どうしたの？」

「（！！！！こんな怖いとこだと知ってたら……ぼく来なかったよ……帰る！）」

「（帰っちゃった……）」

チビはネスにそう言い、家に帰ってしまった。

「もうポーキーが怖がって居なくなっちゃったからずいぶん探してたんだぜ。無事で良かったよ。早く家に帰ろうぜ。親も心配してるぞ。全くどっちが兄貴だかわかりやしないよ。」

ピッキーはそう言いネスの後ろについた。

隕石の前を通るとポーキーがネスを止める。

「ネス！ブーンブーンっていう、カブト虫が飛んでるみたいな音が聞こえないか？」

ネスが耳を済ませると確かに聞こえる素振りをする。

「確かに聞こえる……。」「

「だろ！聞こえるよなあ！」「

すると隕石が光だし、その中からカブトムシ（みたいなのが出てくる。

「わしはカブトムシ……ではない！10年後の未来からやってきた者じゃ！未来はもうさんたんたるありさまじゃ！ギーグという銀河宇宙最大の破壊主が何もかもを地獄の暗闇に叩き込んでしまったのじゃ！しかし、しかしじゃ！わしのいる未来に不思議な言い伝えが残っているのじゃ！」「

「言い伝え？」「

ネスはカブトムシみたいなのが、ブンブーンに問うとブンブーンは続ける。

「少年がそこにたどり着くならば、正しきものは光を見つける。時の流れは悪夢の大岩を砕き、光の道ができる」……と。その少年がネス！あんななのじゃということが、わしの鋭い直感でわかったのじゃ！」「

「（ええ、ボク！？）」「

表情には出していないが内心かなり驚いているネス。

「ギーグの悪の計画はもうすでに地球の一部に及んでいるはずじゃ

！今すぐに戦いを始めれば間に合はずじゃ！大切なのは知恵と勇氣、そして仲間たち。…言い伝えでは3人の少年と1人の少女がギーグを倒すという。詳しいことはあとで教える。いくぞ！心配するな。」

「は、はあ。」

ネスは不安ばかりに頷く。

「まあ、取りあえずポーキーの家に行くか。」

ネスはそう言っ**て**ブンブーンを連れてポーキーの家に向かう。

ネスの家の前辺りに来ると、目の前が光りだす。

するとそこには、銀色の体をした敵、スターマンの息子が立っていた。

「久シブリダナ、ブンブーン。ギーグ様ノ計画ヲ邪魔スルコトニ、オマエハ昔カラ熱心ダッタ。シカシ…ブンブーン、モウアキラメロ。オマエハ 英雄デハナク タダノムシケラナノダ！タタキツブシテヤル！」

スターマンの息子はそう言**つ**と襲い掛かってきた。

2：未来からやってきた者、ブンブーン（後書き）

もしかしたら今日にも、もう1話更新できるかも・・・???

まあ楽しみにしててください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9675y/>

MOTHER2 ～少年少女の思い～

2011年12月1日18時50分発行